令和８年度
西当別小学校全国学力・学習状況調査　分析

今年度に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について分析を行いました。 単に点数や平均値の比較にとどまらず、「子どもたちの強みはどこか」「どの部分につまずきの原因があるか」を特定し、 日々の授業改善に直結する取り組みを進めてまいります。分析結果の詳細と、今後の具体的な指導方針について公表いたします。

1. 国語科：文章読解の安定した土台と情報処理の課題

国語科全体として、じっくりと文章を読んで内容を理解する「読むこと」の領域は、平均正答率64.3%（全国平均 65.9%、北海道平均 65.0%）と、全国や道平均と比べても安定した成果を示しています。しかし、情報の扱い方や表現力に課題が見られ、無解答率も全国や道平均と比べると高くなっています。

国語科における「本校の強み」

- 自分の経験を結びつけて書く記述力

  大問 3 三（2）の自分の経験を交えて記述する問題では、本校の正答率は 82.9% に達し、全国平均（76.4%）を 6.5 ポイント上回りました。 無解答率は 17.1% と課題を残すものの、「記述に取り組んだ児童の多くがしっかりと正答できている」という、本校の大きな強みです。

国語科における「今後の課題」

- 「話すこと・聞くこと」の育成（平均正答率 52.4% / 全国平均 65.8%）

  全国平均を 13.4 ポイント下回っており、口頭での情報伝達や聞き取り、それに基づく理解・対話に課題があります。

- メディアや視覚情報・音声情報の工夫を読み取る力（大問 1 二（1）（2）動画の工夫）

  （1）の動画表現意図を捉える問題は 45.7%（全国 60.2%）、（2）は 40.0%（全国 63.2%）と、全国平均を 15〜23 ポイント近く下回りました。日常的な動画・音声などのメディア情報が「聞き手にどう伝わるか」という制作者の意図を論理的に受け取る力に課題があります。

1　岡野さんの学級では、学校生活をより楽しくするために、休み時間の過ごし方を動画にして学校のみんなにしょうかいすることにしました。岡野さんたちのグループは、草花遊びをしょうかいしようとしています。次の【岡野さんたちの考え】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【岡野さんたちの考え】

草花遊びは一人でできるものもあるけれど、みんなで遊べるものをしょうかいしたほうが、休み時間をより楽しく過ごせると思うな。





一　岡野さんたちのグループは、【岡野さんたちの考え】をもとに、動画の【構成メモ】をくふうして作りました。そのくふうとして最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【構成メモ】

時間	えい像のイメージ	伝えたいこと	
はじめ 10秒	草花遊び	○話題の提示 ・草花遊び	
中① 1分		○遊び方	○おもしろさ
		音を鳴らして遊ぼう ・くき笛（たんぽぽ）	友達といっしょに鳴らして、音が重なるのが楽しい。
中② 1分		対決して遊ぼう ・草ずもう（おおばこ）	友達と対決して、勝ったり負けたりするのがおもしろい。
終わり 20秒		○まとめ ・友達といっしょに草花遊びを楽しんでほしい。	

1　草花遊びの遊び方とおもしろさを取り上げて、遊ぶときの注意点を説明しようとしている。

2　友達と遊ぶときと一人で遊ぶときのおもしろさを比べて、ちがいを明らかにして説明しようとしている。

3　友達と遊ぶときの遊び方を複数取り上げて、おもしろさと合わせて説明しようとしている。

4　草花遊びと他の遊びを比べて、それぞれのおもしろさを説明しようとしている。

二　岡野さんたちのグループは、【構成メモ】をもとに、「中①」を次の【動画の一部】のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの(1)から(3)の問いに答えましょう。

【動画の一部】

〈映像〉	〈音声〉
	岡野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」
	岡野　「みなさん、この音を聞いてください。」 『ピー♪（くき笛の音）』 岡野　「これは何の音だと思いますか。」 水谷　「これはたんぽぽで作ったくき笛の音です。」
	岡野　「どうしたらこんな音が出るんですか。」
	水谷　「くき笛は、たんぽぽの花の部分を取りのぞいて」
	水谷　「片方のくきの先をつぶして作ります。」
	水谷　「つぶした方をくちびるでくわえ、風船をふくらませるように息をふきこむと」 『ピー♪（くき笛の音）』 水谷　「このように音を出すことができます。」
	水谷　「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」 『ピー♪（くき笛の音）』『ポー♪（くき笛の音）』
	岡野　「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

(1)　岡野さんたちのグループは、【動画の一部】をくふうしてさつえいしました。そのくふうとして適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

1　草花で遊べる場所への行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めている。

2　くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしている。

3　くき笛を作る映像に文字の説明を加えて示すことで、遊び方の手順が伝わるようにしている。

4　くきの長さを映像で比べて示すことで、くき笛にしやすいたんぽぽを見分けやすくしている。

5　手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

(2)　岡野さんたちのグループは、【動画の一部】の［　　］の部分をくふうしました。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　映像で示したくき笛の作り方が伝わるように、大事な言葉をくり返し使って説明している。

2　映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、草花の一部を具体的に取り上げて説明している。

3　映像で示したくき笛の作り方が伝わるように、注目してほしいところを動作に合わせて説明している。

4　映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、鳴らし方のこつを手順に沿って説明している。

正答率 40.0%
全国 63.2%

正答率 45.7%
全国 60.2%

日常的な動画・音声などのメディア情報が「聞き手にどう伝わるか」という制作者の意図を論理的に受け取る力に課題があります。

2. 算数科：高い記述力と「割合」の課題

算数科では、領域による正答率の偏りが非常に大きいことが判明しました。「測定」領域（77.1%：全国平均 78.1%）や基本的な「数と計算」の理解が健闘している一方、「変化と関係」「データの活用」などの思考力を問う領域が課題となっています。

算数科における「本校の強み」

- データの矛盾を数学的に説明する記述力

  大問 4（1）の「アンケートの誤りについて、その根拠を数学的に説明する問題」の正答率は 60.0%（全国平均 56.2%）でした。 国語科と同様、記述式で根拠を説明する思考力が備わっています。
- 数の仕組み（小数）の安定した定着

  大問 3（1）のカードを並べて大きい小数を作る問題では 85.7% が正答しており、十進位取り記数法の基礎をしっかり理解できています。

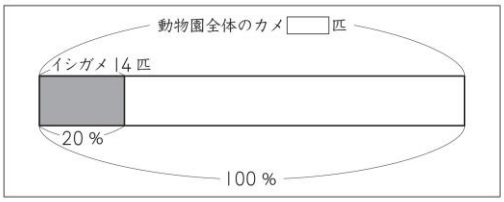
算数科における「今後の課題」

- 「変化と関係」領域の定着不足（平均正答率 26.7% / 全国平均 41.1%）

  全国平均を 14.4 ポイント下回っています。特に 5 年生で習う「割合（%）」の基本概念が抜け落ちており、 大問 2（2）「割合から全体を求める問題」の正答率は 28.6%（全国 53.1%、全国差 -24.5%）、大問 2（4）「倍の数字を表す図の選択問題」は 25.7%（全国 34.2%）にとどまり、立式や概念理解に至っていません。
- 二次元の表（クロス集計表）を読み解く複合的処理力

  大問 4（3）の複数の条件が交差する二次元の表から数値を処理する問題では、本校の正答率は 5.7%（全国平均 17.9%）でした。 複数の情報を条件に合わせて整理・分類する経験が不足しています。

(2) この動物園にはいろいろなカメがいます。そのうちイシガメは 14 匹(ひき)います。イシガメの数は動物園全体のカメの数の 20 %です。

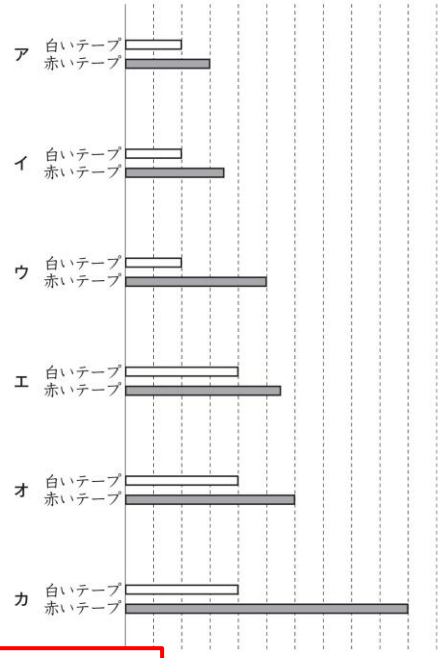


この動物園全体にはカメが何匹いますか。
求める式とその答えを書きましょう。

正答率 28.6%
全国 53.1%

小算－8

(4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図はどれですか。
下の ア から カ までの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



正答率 25.7%
全国 34.2%

小算－10

問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えることに課題があります。

(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する 1 年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する 1 年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

正答率 5.7%
全国 17.9%

データを二つの観点から分類整理した二次元の表に表して、分析できるようにすることに課題があります。

小算－20

3. 児童質問紙の分析：生活習慣と ICT 活用のつながり

子供たちの「思考・判断・表現」や情報の整理につまずきが見られる背景には、放課後の長時間の受動的デジタル消費と、学校における ICT 端末の受動的な活用という「2 つの構造的リスク」が深く結びついています。

- リスク①：長時間におよぶ「受動的デジタル消費」の割合

  朝食摂取などの基本的生活習慣は 81.1% の児童に定着しています。しかし、放課後に「1 日 4 時間以上の SNS・動画視聴」を行う児童が 27.0%（全国平均 21.9%）にのぼります。 さらに、学校外での読書を「全くしない」と回答した児童は 72.9% に達し、情報の受動的な受け取りに偏っている現状が伺えます。

- リスク②：学校での ICT 活用が「受動的利用（調べる・打つ）」に留まる現状

  児童は、端末を用いて「文章を作成する（78.4%）」や「情報を調べる（78.3%）」基本操作は全国並みに行えます。 しかし、端末を使って「情報を整理する（図や表、思考ツールの活用）」は 29.7%（全国 59.8%）、「プレゼンテーションを作成する」は 35.1%（全国 66.7%）と、 いずれも全国平均の半分程度に留まります。端末が「見る・打つ」という受動的な役割に留まり、自らの思考を構造化するための「知的生産ツール」として活用しきれていません。

4. 授業改善に向けたアクションプラン

国語科：情報活用力と表現力の向上

- 発問の日常的な工夫：メディア（動画・音声）の表現意図へのアプローチ

  授業内で ICT 等の動画や資料を用いる際、単に視聴させるだけでなく、「なぜ今、この文字が大きく強調されたと思う？」 「このテロップが表す意図は何か？」といった、制作者の表現意図に注目させる発問を意識的に行い、情報読み取りの意識を高めます。

- 引用プロセスの明確な指導と条件付き記述の場の設定

  自分の考えを自由に書かせる前に、「資料やメモの特定のキーワードや図のデータを使って書く」という条件付きの短い記述活動をスモールステップで取り入れます。

算数科：全学年における「割合・関係理解」の系統的指導

5 年生で初めて「割合」に出会ってつまずくのを防ぐため、本校では低学年（1・2 年）から高学年（5・6 年）に至るまで、 系統的で一貫した「割合の指導」の共通統一ルールを設定し、実践します。

- 低学年（1・2 年）：おはじきや具体物を用いた「〇個ぶん」の意識付け

  ブロック等を使った「2 個の 3 つぶん（2×3）」のような表現を徹底し、「1 つ分の大きさ（基準量）」と「いくつぶん」を感覚的に捉えさせます。

- 中学年（3・4 年）：「テープ図・数直線」のノート指導の統一化

  3 年生の割り算や 4 年生の「倍の計算」の文章題では、立式する前に必ずノートに「テープ図」や「数直線」を描かせる指導を全学年で統一します。「基準量を『1』としたときに、比べる量がどれだけにあたるか」という数直線の基礎を 4 年生までに体得させます。

- 高学年（5・6 年）：「比べる量、元にする量、割合」関係図の徹底活用

  「割合」の式を暗記させるだけでなく、数直線と行き来させ、「何を基準量『1（100%）』と置いているか」を児童自ら説明する機会をつくります。

組織的学習支援体制：「飛び入りティームティーチング」の導入

これまでのティームティーチング・少人数指導に加え、算数科で基礎的な内容を全員が確実に身に付くよう、単元テストのやり直し学習や、まとめ問題「たしかめよう」の時間に、複数の教員による指導を強化します。